地域医療ネットワークの会　会報

ち★ネット！

平成24年（2012年6月発行）VOL.14
地域医療ネットワークの会
聖マリアンナ医科大学病院
メディカルサポートセンター　事務局

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です！

平成24年5月25日　第15回　地域医療ネットワークの会

「腹水貯留のある末期がん患者への関わり」

同じような事例に日々対応している近隣の往診医・訪問看護師・ケアマネジャー・聖マリアンナ医科大学病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー等、12施設、計60人で検討会を行いました。

内容	座長：地域医療ネットワークの会　世話人	看護師	丹下　みつる
1．事例紹介	聖マリアンナ医科大学病院　腫瘍内科	医　師	伊澤　直樹
2．腹水濾過濃縮再静注法（CART）ミニレクチャー	渡辺クリニック	医　師	渡邉　寛之
3．退院調整看護師の立場から	聖マリアンナ医科大学病院ﾒﾃﾞｨｶﾙｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ	看護師	行田　菜穂美
4．訪問看護の立場から	あい訪問看護ステーション平尾	看護師	高田　知美

伊澤医師より、50代女性、胃がん・肝転移のターミナル患者。難治性腹水による入退院を繰り返しCARTをした事例の紹介がありました。

渡邉医師からは、在宅でのCARTについてミニレクチャーがありました。

行田看護師は、どこでCARTを受けるかについて、本人・家族の意向を確認しながら支援した経過の報告がありました。

高田看護師より、医療者と患者・家族の考える在宅療養の形に相違を感じた事例であったと報告がありました。

全体ディスカッションでは、腹水を抜く事については色々な意見がありましたが、CARTは腹水を抜いて食事が出来る、呼吸困難が軽減するなどのQOLを向上することが出来るという意見がありました。また、同じような症例を持つ訪問看護ステーションからは、CARTが出来る事を知っていたらもう少し楽にしてあげられたかもしれないという意見も出ました。

治療中も自分で色々意思決定してきた患者をよく知る外来看護師からは、得た情報を訪問看護師と共有することで、対応の参考になったのではないかという意見がありました。

その他、地域のサポート体制を築くタイミングや５０代でかかる医療費負担の問題などについて盛んな意見交換がなされました。

終了後のアンケートには、CARTについて知る事が出来て良かったという意見がありました。また、がん患者の腹水貯留に対する苦痛緩和については、患者・家族が最終的に良かったと思えるような方法を選択できるように関わっていく事が必要という意見もありました。

今後も地域医療のネットワークを強化し、事例から学んだ事を、活かせていけたら良いと思います。